

④交流(共同学習)

グループ

【現状】

学部間交流のハードルが高い!交流場面が少ない!
せっかくAB部門たくさんあるのに…
交流すれば他学部のことを知れる学べるのに
(児童・生徒・教員・活動)
年齢のちがう交流を通して、学びや成長の機会をつくりたい!
オンラインもどんどん活用する場面があってもいい!



学部や部門を超えたちょっとした交流をしたい!

研究

【ゴール】

- ・学部や部門を超えたちょっとした交流ができた
 - ・外部への発信ができた
- (あさおインフォメーション、学年通信、学級通信)
- ・来年度への引継ぎ(年度初めに学部会で共有)



テーマ設定理由と現状

麻生支援学校 小中高 約250名 (知的・肢体・在宅訪問・ひまわり学級・分教室)
教員 約150名

- ・大規模の学習環境の中、**学部や部門を超えた交流があまり行われていない。**
- ・交流をしようと企画をする場合でも、学部会での確認や調整などが必要で**気軽に行うことができない**現状がある。



学部や部門間の大きな交流ではなく、
「学部や部門を超えたちょっとした交流」をテーマに研究を進めてきた。

研究の流れ

- ①現状・課題の確認
- ②ちょっとした交流を行う
- ③交流の様子を発信する
- ④今後も気軽に継続するために



①現状・課題の確認

- ・学部間交流の**ハードルが高い!交流場面が少ない!**
- ・せっかく**AB部門たくさんあることを生かしていない。**
- ・交流すれば**他学部のことを知ることができる。**(児童・生徒・教員・活動)
- ・**異年齢間の交流**を通して、学びや成長の機会をつくりたい!
- ・**オンラインもどんどん活用**する場面があってもいい!



②ちょっとした交流を行う～交流記録～

修学旅行発表会で交流



知的 高等部 3年生  知的 高等部 2年生

高等部3年生が生活单元で行った「修学旅行の新聞発表会」を2年生の国数グループが見学を行った。発表を聞いたり質問に答えたりしたことで来年の修学旅行を楽しみに思うことができた。2年生にとっては事前学習となり、3年生にとっては楽しかった体験を共有できる機会になった。

お祭りで交流



知的 中学部 2年生  肢体 中学部

知的の中学部2年生で行っているお祭りに肢体中学部の生徒がお客さんとして参加した。店員とお客さんとしてコミュニケーションをとる中で、初めは緊張した様子も見られたが、徐々に慣れて自然と笑顔があふれる交流となった。

給食カードを一緒に届ける交流



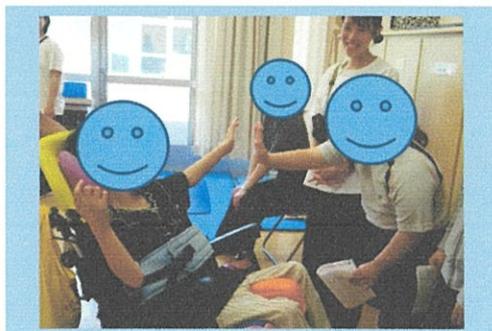
肢体 中学部 1年生



肢体 小学部 1年生

給食後の時間が合うときに一緒に給食カードを届ける活動をしている。
お互いのペースに合わせて移動したり、移動中にお話しをしたりすることで仲を深めることができています。

自己紹介の交流



肢体 中学部 1年生



知的 高等部 3年生

お互いの自己紹介をして知り合う活動を行った。
中学部の生徒に合わせて高校生が手話で自己紹介をしてくれたり、ハイタッチをしてあいさつをしたりして、交流を深めることができた。

スクーリングでの交流



ひまわり学級生徒



肢体 小中高

スクーリングにて学部の子と交流を深めるために、自己紹介ブックをしようとした。
自己紹介ブックを活用することで、話題を見つけやすく、自然と会話が広がり、より交流を深めることができた。

ゲストティーチャーを通しての交流



知的 小学部 1.2.3年生



ゲストティーチャーを交えて合同音楽の授業を行った。
1年生は「できるかな体操」2年生は「ドレミの歌」のハンドベル3年生は「おはながわらった」のリトミックスカーフを発表したり、一緒に参加したりして交流を深めた。

読み聞かせでの交流



知的 高等部 2年生



知的 小学部 6年生

高等部の生徒が小学部の児童に「そらまめくんのベッド」の読み聞かせを行った。
高等部の生徒は事前に練習を行い、「ゆっくり大きな声で・言葉のまとまりで読む」を意識して読み聞かせを行った。
小学部の児童はリラックスした様子で読み聞かせを見聞きし、終わると拍手をして感謝を伝えることができた。

④ 今後も交流を気軽に継続するために（来年度に向けて）

次年度以降の継続に向けて

- I 交流希望表を活用した交流
- II 年度当初に各学部へ周知伝達を行う

I 交流希望表を活用した交流

交流オーダー希望表

目的：他学部との交流をしていき、学部の垣根を超えて交流を深めていこう。
※安全のもと実施していき交流したい学部には研究からお伝えしますが、その後の調整は各自で行ってください。
※また、参加希望する時間も記載をお願いします。

交流希望団体	参加希望団体
例- B 高2年【読み聞かせ】○月×日 10:55~11:30（出来ればB小、A中を対象に） 小野	例- A 中1年 斎藤

学部・学年・日時、どんな交流が出来るか（読み聞かせなど）、担当者をお書きください。

学部・学年・担当者をお書きください。

・交流を希望する団体が、日時や内容、担当者名を書き込む。それに対して、参加を希望する団体は、学部学年や担当者名を書く。

・各学部学年で授業の開始終了時間が異なっているので、担当者同士で時間や内容の調整を行う。

・交流オーダー希望表は、職員室出入口などに大きく張り出しておく目にとまりやすいと考えている。



II 年度当初に各学部間へ周知伝達を行う

- ・小学部・・・学部の交流係が交流について調整と計画作りを行う。
- ・中学部・・・授業担当者が調整・立案する。（年度初めに学部長より提案）
- ・高等部・・・学期初めのAB合同学部会で、交流の方法を学部長から周知。

また今年の研究グループに、所属のない学部に関しては（A中学部）A部門会等を活用し、周知、共有する。

